

令和7年度 第3回 吹田市立図書館協議会(会議要録)

開催日時:令和8年(2026年)2月12日(木)午後2時～4 時

開催場所:吹田市立中央図書館4階集会室

出席委員:瀬戸口会長、日置副会長、大坪委員、飯田委員、岡委員、岸本委員、岩本委員、泰間委員、安永委員

欠席委員:山口委員

事務局:二宮地域教育部長、大平中央図書館長、桑名参事、添田主幹、栗生主幹、澤井さんくす図書館長、迫田千里山・佐井寺図書館長、高砂千里丘図書館長、長尾健都ライブラリー館長、佐野山田駅前図書館長、川本北千里図書館長(指定管理事業者)

傍聴者:1名

I 令和7年度 第3回 吹田市立図書館協議会次第

1 第12期委員・事務局紹介

2 役員選出

3 第12期吹田市立図書館協議会について

4 「令和8年度(2026年度)吹田市立図書館の目標(案)」について

5 報告事項

(1) 吹田市立図書館におけるシステム機器更新後の状況について

(2) 吹田市立図書館人材育成方針(案)について

6 その他

(1) 次回日程について

(2) その他

II 会議要録

3 第12期吹田市立図書館協議会について

事務局:今期の協議会において、図書館の運営に関して興味関心のあるテーマについて、本日は又は次回の協議会にてお聞かせ下さい。

委員:サービス方針5の多文化サービスについて。図書館の資料では大学の留学生との交流のみが記載されているようだ。小中学校には多くの外国籍の子供がいる。外国にルーツを持つ子供への支援について、どんな取組みがあるか知りたい。

事務局:図書館の基本サービスには多文化サービスがあり、外国語資料の収集を行っている。電子図書館でも外国語の資料を積極的に購入しているが、英語以外の言語は入手が難しい。留学生や外国籍の方の図書館見学、英語の読み聞かせなども実施しているが、取組みは十分ではない。学校からの依頼により母語が日本語でない子供に向けて母語の本を提供している。その際、大阪府立図書館など市外の図書館にも協力いただき提供することもある。

委員：インドネシアなど東南アジア出身の子供も多い。その言語の絵本と日本語訳の絵本を対比して読むことで、日本語の理解が深まると思う。こうした子供たちに図書館に来てもらうことは難しいと思うが。

委員：図書館はどのように学校図書館を支援しているのか。また、学校図書館の現状と分かれば教えてほしい。

委員：小学校の学校図書館は、市の図書館に比べ蔵書数が限られ古い本が多くなっている。毎年、子供たちが読みたい本を選書しているが、人気のある本に希望が集中して読みたい時に読めないことがある。学校図書館だけでまかなえないものは、市立図書館の支援を受けており、テーマに沿った資料の団体貸出や読み物セットなどで対応しているが、子供たちの全てのニーズには対応できていない。読書活動支援者が配置され、児童の読書意欲や学びにつなげたり、と少しずつ整備はされているが十分とは言えない。学校図書館の中で完結するのではなく、地域のボランティアが読み聞かせに来てくれたりすることで、子供たちは本や読書の世界に触れている。地域の協力で支えられている。

委員：文庫に来ている子供たちは、学校図書館、文庫、図書館を上手に使い分けている。1つずつが別々に独立しているように考えている子供たちもいるので、全部が連携していることを伝えている。学校図書館で足りないものは、図書館が貸してくれているということを言っている。学校図書館や図書館で分からなければ、文庫に来てねとも言っている。そういうことがなかなか伝わらないのが現実だ。学校や図書館に力をいただけたらと思う。文庫は手伝いができると思う。

事務局：平成26年度に学校図書館図書標準を満たすため、本を購入する経費を計上した補正予算を提案したが、議会側から、審議の中で読書活動支援者の配置も必要と判断され、予算が修正議決された経過もある。図書館でも人員は重要と考えており、学校図書館で人員の配置の課題も一定あると思うが、図書館としても、引き続きしっかりと連携し、サービスを充実させる必要があると認識している。

4 「令和8年度(2026年度)吹田市立図書館の目標(案)」について (事務局説明)

サービス方針 1 資料と情報の提供

委員：指標「レファレンス受付件数」に「令和8年度目標(10%増)」の10%増とあるが何に對しての増か。

事務局：令和7年度の実績に対して10%増を目標としている。

委員：レファレンスサービスにオンライン対応はあるのか。指標の受付件数は対面のみか。

事務局：オンラインでは行っていない。窓口又は(図書館ホームページの)問合せフォームで対応している。問合せフォームは、定期的に一定数の問合せがある。

サービス方針 2 バリアフリー読書支援サービス(障がい者サービス)

(特になし)

サービス方針 3 持続可能な運営

委員: 項番3「生成AIを適切に活用して事務の効率化・迅速化を図ります」は、図書館サービスではなく、事務の効率化を目的としているという理解でよいのか。

事務局: 図書館のレファレンス業務ではなく、事務作業での活用を想定している。

委員: 効率化の面で有用なので、ぜひ使ってほしい。

委員: 項番4にアンケートを実施するとあるが、アンケートだけでなく目安箱の設置など、図書館側から積極的に意見を集める仕組みを設けてはどうか。

サービス方針 4 利用促進

委員: 重点項目の1つ、項番3に「年間入館者数を増やす」とあり、参考として吹田市の計画にある指標(令和10年度に222万人)が示されている。この数字は令和8年度の達成率を記載するための指標なのか、あくまで参考の指標なのか。「市民の利用登録率」とは別に成果を記載するのか。

事務局: 参考としてのもの。

委員: 令和10年度の指標だけでなく、現在の入館者数も記載してはどうか。そうすることで、目指す増加量が分かりやすくなる。

事務局: 実際の数値を記載する。

委員: 小・中学生など若い世代の来館を増やすために、図書館を巡るスタンプラリーなどの具体的なイベントを学校と連携して実施し、子供たちが図書館に足を運ぶきっかけ作りをしてはどうか。図書館から学校へ具体的に働きかけることが重要だ。

事務局: 中高生は、図書館を居場所として利用している。特に、中央図書館の自習室は試験時期に多く利用されている。だが、来館しても本を手取ることは少ない。外部への働きかけも大事だが、来館している子供たちの関心をどう引きつけるのかを、まずは考えていきたい。

委員: 前回の協議会で、文字を拡大する機器の紹介があったが、高齢者向けのサービスについての記載がないのではないのか。

事務局: 吹田市立図書館では、高齢者向けと定義したサービスはない。前回の協議会では、高齢者に関連するサービス要素をまとめて、シニア向けのサービスとして紹介した。図書館の年度目標は、各種サービスと連動して作成しているため、「高齢者サービス」としての記述がない。幅広い利用者を対象としている利用促進などの目標には、高齢者も含

まれている。高齢者のみを対象とした文章が入れられないか検討したい。

サービス方針 5 特色あるサービス

委員：多文化サービスの項番2に「外国にルーツを持つ児童を支援するため、小学校や市関係部署等と連携」するとあるが、中学校との連携も進めてはどうか。

事務局：過去数年間、資料の要望があったのは小学校のみだったため、小学校と記載しているが、中学校から要望があれば対応させていただくので、記載を工夫したい。

委員：他市の図書館協議会で多文化サービスを取り上げた際、保育園・幼稚園の現場や保護者が相談先に困っているという話があった。中学校にも潜在的なニーズがあるに違いないので、記載することで相談の門戸を広げる効果が期待できるのではないかな。

委員：生成AIは事務の支援だけでなく、多文化サービス分野でも活用可能ではないか。同時通訳や画像翻訳などの技術が著しく進化しているため、それらの利便性を取り入れることを検討してほしい。

委員：ビジネス支援サービスの項番3「類縁機関と連携したビジネス支援サービスの提供」の類縁機関は、近隣都市の図書館を指しているのか。

事務局：大阪府立中之島図書館等を想定している。中之島図書館は積極的にビジネス支援を行っており、江坂図書館からは地下鉄御堂筋線で乗り換えなしで行ける。吹田市の図書館で解決が難しい場合に、中之島図書館を案内するという連携を考えている。

委員：関係部署という言葉が多用されているが、イメージしづらい。具体例を一つ示すことで市民にとってわかりやすくなるので、検討してほしい。

サービス方針 8 児童サービス

委員：小学生は夏休みや冬休みの宿題はかなりあるのか。

委員：小学校の長期休業中の宿題は減ってきており、子供一人でできるものもあれば保護者の手助けが必要なものもある。以前は夏休みには読書感想文や一定冊数の読書を求める宿題があったが、最近は減少傾向にあり、本に触れる機会の差が広がっている。

委員：夏休みや冬休みの宿題で、図書館で自分の興味に基づいて調べ、本を読み、調査してレポートや感想文を書くという宿題があっても良いのかなと思った。興味を見つける力や調査する力、本を読む力、文章を書く力が小学生のうちから身につく、学力向上につながるのではないかな。

委員：小学校では長期休業中だけでなく普段の授業でも、インターネットや図書から情報を集め、問題意識と目的意識を持ってまとめて伝える課題に取り組んでいる。子供の力となって定着するには時間がかかるかもしれないが、インプットとアウトプットの学習に取り組む機会は増えている。

委員：文庫の子供たちに、図書館のレファレンス(カウンター)の場所が分からないと言われた

ことがある。子供向けの分かりやすい案内を掲示してはどうか。子供たちが図書館を利用するときに、職員と話しやすい環境を作ってもらいたい。

サービス方針 9 子ども読書活動支援センター

委員：項番7、地域での読書活動について。吹田の図書館は文庫への支援が手厚く、文庫ごとに予算内で本を選べるシステムがある。また、「子どもと本の講座」も他市からの評価が高く、継続してほしい。

5 報告事項

(1) 吹田市立図書館におけるシステム機器更新後の状況について
(事務局説明)

(2) 吹田市立図書館人材育成方針(案)について
(事務局説明)

委員：「吹田市の図書館職員に必要な能力」の情報活用能力に「アンテナ力」と「情報収集能力」があるが、「アンテナ力」とは。

事務局：アンテナ力は必要な情報を察知し掴む能力であり、情報収集能力は掴んだテーマやデータを具体的に集める能力を想定している。

委員：育成は全員がスキルアップしてボトムアップを図っていくものであり、新人が一番上にある現在の表記よりも、成長して上を目指すイメージに合わせて順番を逆にすると、視覚的に分かりやすいのではないか。

委員：会計年度任用職員は研修に参加するのか。

事務局：会計年度任用職員の司書も常勤職員と同様にキャリアに応じて必要な研修に参加している。図書館の経営は常勤職員が担っているため、まず常勤職員の方針を作成した。

委員：「習熟に必要な主な研修」とは、必須参加か任意か。

事務局：各サービスの担当期間に合わせて研修を受講し、受けられなかった場合は翌年度に必ず参加することが望ましい。初級研修は初級の時期に受講するのが効果的であり、適切なキャリア段階に応じて研修内容をマッチングさせるよう配慮している。

委員：JLAの中堅職員ステップアップ研修などの有料研修は、職務として参加しているのか。

事務局：毎年度予算要求をして受講している。

委員：文科省の国社研(国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター)の研修には、派遣していないのか。

事務局：派遣していない。

6 その他

(1) 次回日程について
(事務局説明)

(2) その他

・「子どもと本のまつり」について

事務局:毎年、4月23日の子ども読書の日や4月30日の図書館記念日、4月23日から5月12日のこどもの読書週間に合わせた約1か月間、全館で子ども向けイベントを開催している。43回目となる令和8年度は、4月18日から5月17日に開催予定。おすすめの本をハガキ風の手紙に書いて投函したり、マスコット「すいぼん」などのぬり絵をしたりする企画には、昨年度、約2,600枚の参加があった。また、講演会や工作、人形劇など多彩な企画もある。詳細な内容が決まり次第、広報する。